

# 男女協働推進ワーキンググループ 2016年度報告書

## 子育て支援の現状と課題

大阪大学 人間科学研究科/人間科学部  
男女協働推進ワーキンググループ

---

2017年6月

## はじめに

現在、グローバルにも、国内的にも、ジェンダー平等を推進する機運はますます高まっています。大阪大学では、2012年「大阪大学男女共同参画推進基本計画」を策定、それに基づき、学内保育園の整備をはじめとする構成員の学修、研究、就業と家庭生活の両立支援を進めてきました。

しかし、社会はもちろん、大阪大学においても諸課題が山積しています。次世代の教育と新たな社会的価値の創出という大学の使命を果たすために、大阪大学は、以下の3つの柱からなる「男女協働推進アクションプラン」を全学的に推進することを宣言し、男女協働推進センターを設立するとともに、各部局での独自の取り組みをもとめています。

### ◎男女協働推進アクションプラン

1. 学修・研究・就業と家庭生活の両立支援の強化
2. 女子学生・女性上位職拡大の加速化
3. ダイバーシティ環境の実現に向けた構成員の意識改革

人間科学研究科では、大阪大学全体の動きに添いつつ、独自の取り組みを進めるために、栗本英世研究科長の提案で、2016年春に男女協働推進ワーキンググループを立ち上げ、まずは、アクションプランの第1の柱（その中でも子育て支援）に焦点を当て、部局構成員の状況やニーズを明らかにすべく、積極的に活動してきました。

アンケート調査、ヒアリング調査などにご協力くださった方々のおかげで、ワーキンググループのメンバーも様々なことを学び、貴重な一年となりました。2016年度の成果を皆様に還元すべく、個人情報などには十分な配慮をした上で、この度報告書としてまとめました（ヒアリングについては全て調査協力者の方の確認と了解を得て原稿化しておりますが、その際、個人が特定されないように配慮した加工も行っております。またアンケートの自由記述については、ご意見をそのまま載せることは避け、項目ごとに整理した形で紹介しております）。

ご協力くださった皆様にはこの場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。この報告書が皆様にとって、何かしらお役に立つことを心底から願っております。

ワーキンググループのメンバーは意欲的にアイデアを出し、動き、助け合いながら活動してまいりました。また、山元幸宏事務長にも常に見守っていただきました。本報告書の内容にご意見等がありましたら、厳しいものも含めましてご指摘いただければ幸いです。

2017年6月9日

大阪大学 人間科学研究科/人間科学部  
男女協働推進ワーキンググループ  
座長 木村涼子

## 目次

はじめに

第1部 アンケート結果からみる子育て支援の現状と課題・・・・・・・・・・ 1

第2部 子育て支援に関するインタビュー記録をもとに・・・・・・・・・・ 13

(1) 大学院生ご夫婦から頂いた意見・・・・・・・・・・ 15

(2) 助教の方々の対談より頂いた意見・・・・・・・・・・ 21

(3) 職員の方々から頂いた意見・・・・・・・・・・ 29

(4) ご夫婦ともに研究者である男性教員から頂いた意見・・ 31

第3部 関連情報・サイト集・・・・・・・・・・ 41

あとがき

## 第1部 アンケート結果からみる子育て支援の現状と課題

## アンケートの結果からみる子育て支援の現状と課題

### はじめに

今回、大阪大学人間科学研究科の男女協働推進ワーキンググループの活動の一環として、アンケート調査を行った。アンケート調査を行った理由は、人間科学研究科に関わる人々に、大阪大学における現状の子育て支援がどれほど認識されているのか、また、どのようなニーズがあるのか、といったことが十分に把握できておらず、部局として今後いかに男女協働を推進していくべきかを検討するために必要だと考えたからである。そこで、人間科学研究科の大学院生・研究生、教職員を対象にしてアンケート調査を行い、現状を把握しようと試みた。ここでは、その回答結果を整理して、今後、男女協働を推進していくうえでの参考資料を提供したい。

なお、以下に示すように回答数はそれなりに得られたものの、人間科学研究科全体の教職員と大学院生・研究生を母集団とすると、回収率は高いとは言えない。しかし回答してくださった方々からは、貴重なご意見を多数いただいた。自由記述の回答を項目ごとに整理し、アンケートの結果を紹介していく。

回答数：74名

調査方法：教職員にメールを通じて調査票を送付。

そのために用意したメールボックス及びメールにて回収。

調査時期：2016年8月～9月

質問紙の内容：資料2（pp.10-12）を参照

### 1. 回答者の性別・立場・年齢・子どもの数について

まず、どのような方が回答してくださっているのかを見てみると、男性よりも女性が多い（図1）。また、大学内の立場で見ると、教員が多く回答している（図2）。大学院生・研究生は24名とそれなりの人数が回答してくれているように思えるが、全体の数は明らかに教職員よりも多いので、回収率という点からいうと、今回の調査は、大学院生・研究生への周知が足りなかったかもしれない。

次に、年齢に着目してみると、様々な年齢の方に回答いただけていることが分かる（図3）。子どもがいるかどうかについては、おおよそ半々となっている（図4）。

## 第1部 アンケート結果

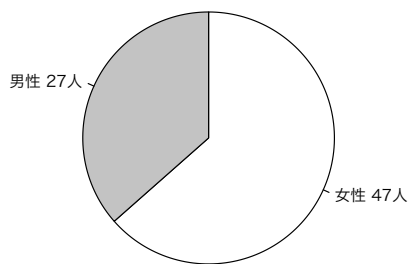


図1. 回答者の性別

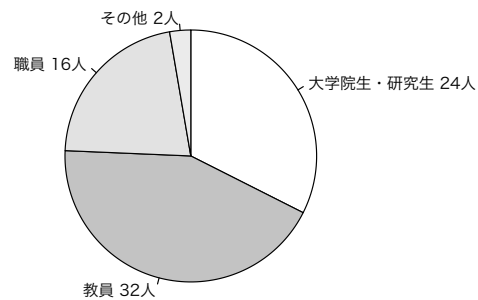


図2. 回答者の立場

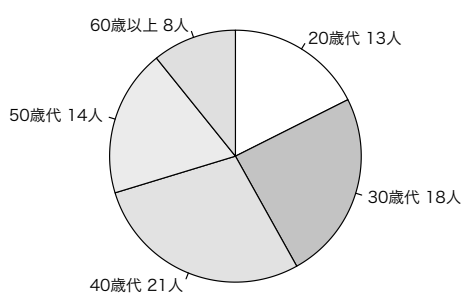


図3. 回答者の年代

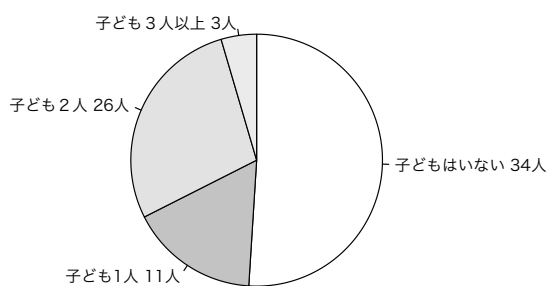


図4. 回答者の子どもの数

## 2. 育休について

それでは、育児休暇取得についての回答を確認していきたい。ここでは、子どもがいる方のみに限定して分析をしている。育児休暇取得経験の有無の割合を示したのが図5である。育休経験ありの人は9人であり、全て女性である。女性に限ると、取得経験があるひとは回答者中4割程度であり、男性は一人もいないということが分かる。

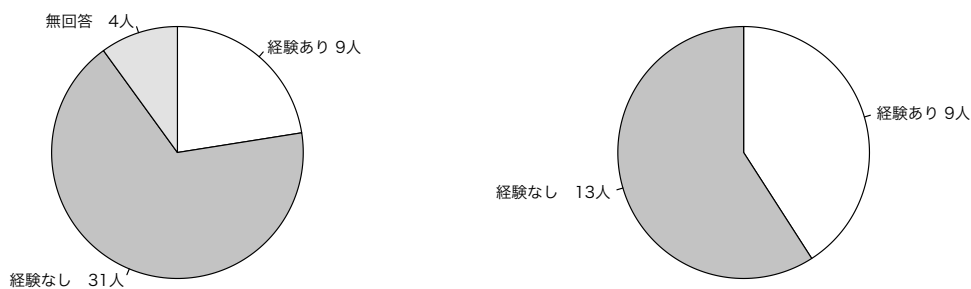


図5. 育児休暇取得経験者の割合（左図は子どもがいる回答者全体、右図は子どもいる女性回答者のみ）

女性の場合（図5の右図）、育休取得経験がある人が4割であり、逆に言えば、6割の女性が育休を取らずに子育てをしてきたことを示している。その背景には、以下に記す「産休を取らなかった理由」の中に挙げ

## 第1部 アンケート結果

られているように、定職に就くのが遅い研究職特有の困難さがあると考えられる。また、特に男性の場合は、産休を取らなかった理由として、経済的な側面が多数挙げられた。

| 【育休を取らなかった理由】                                 |
|---|
| 定職に就いていなかった・非常勤であったため仕事が不安定だった                |
| 育児休暇中に収入が減少することによる経済的な理由                      |
| 保育所の待機児童が多く、育休を取得すると子供を預ける際の優先順位のポイントが下がってしまう |
| 育児休暇取得のための手続きや引継ぎ等が煩雑であると感じた                  |

| 【育休を取得した上で困ったこと・問題だったこと】                         |
|--|
| 復帰直後の業務量が膨大であった                                  |
| 復帰後に部署や上司が変わり身近に仕事などについて相談できる人がいなかった             |
| 育児休暇中に職場の情報が入らないため復帰後の仕事の進め方に戸惑った                |
| 代替教員の補てんの制度があったにもかかわらず、「手続き上の理由」で非常勤講師しか手当されなかった |

| 【仕事への復帰を円滑にするためにあったらいいと思うこと】     |
|----------------------------------|
| 相談窓口や育児経験者が相談にのる仕組み              |
| 子育てについて大学の制度やサポート体制に関する説明会       |
| 育休を取得予定者や育休経験者とのネットワーク作りを支援する仕組み |

育休取得者を増やすためには、少なくとも、育休者への一定程度の給与の支給や、その教職員の役割をどのように誰が負担するのかというシステムの構築、そして、育休後に育休者が適応しやすい環境づくりが必要だろう。

### 3. 全学及び人間科学研究科において「役に立っている」子育て支援

全学及び人間科学研究科において既にある子育て支援については、「研究支援員制度」や一時預かりの保育所が役に立つという意見が寄せられた。

| 【人間科学研究科で「役に立っている」子育て支援】                     |
|--|
| 研究支援員制度を利用してとても助かっている                        |
| 病児保育、保育園、学童保育（利用料金が柔軟に設定されれば、より利用しやすくなる）     |
| 一時預かり保育の「なかよし」と「みらい」の取り組み（吹田キャンパスではやっていなく残念） |

## 第1部 アンケート結果

ただし、大学院生からは、教職員しか病児・病後児保育室を利用できないという問題が寄せられており、それについては、大学院生も対象にすることを検討する必要があるだろう。

| 【既存の制度に対する大学院生の意見】   |
|--|
| 研究支援員制度は学生も利用できると助かる   |
| 学生は一時預かり保育の「あおぞら」を利用できず困った   |
| 付属の保育園はありがたいが、保育料が学生には高額すぎるので学生への割引があるとよい  |
| 豊中キャンパスにある「オレンジショップ（小部屋があり授乳が可能、絨毯敷きなので子どもと一緒に座って・寝かせて授業が受けられる）」のような教室での授業があれば子連れで参加しやすい |
| 「長期履修制度」が役立つ   |

他方、そもそもどのような子育て支援に関するサービスやシステムがあるのか分からないといった意見も寄せられている。これについては、すぐにでも整備できることなので、早急に対応できるようにしたい。

| 【子育て支援に関する情報について】                                 |
|---|
| 阪大全学 HP だけでなく、人科 HP にも子育て支援の関連情報が一目でわかるページがあれば助かる |
| サービスやシステムの潜在的利用者が容易に必要な情報を入手できるような工夫が必要           |

ちなみに、現在、人間科学研究科の1階にある女性用休憩室について、認知度は以下のようにになっている。このようなアンケートに答えてくださった方々は、子育て支援などへの意識が高い方だと思われる。それでも半数ほどしか「知っている」と答えていないということは、まだまだ周知されていないと考えた方が良いのかもしれない。

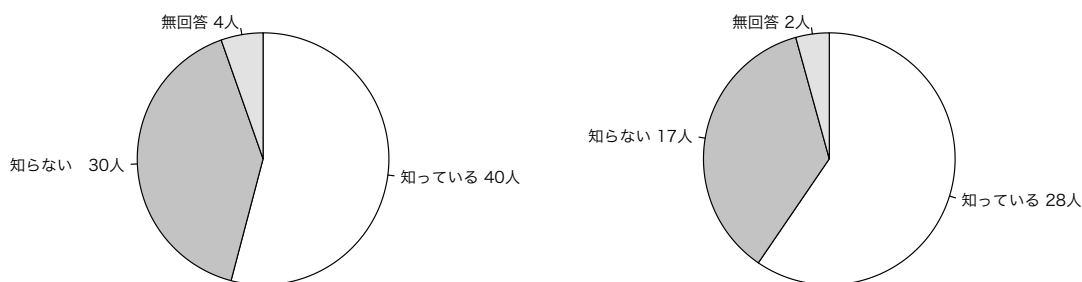


図6. 女性用休憩室の認知割合（右は女性のみ）

また、女性用休憩室については、次のような意見があった。



## 第1部 アンケート結果

|   |
|---|
| <b>【人間科学研究科の1階にある女性用休憩室について】</b>                  |
| 水回りがあるとありがたい                                      |
| 現在のように会計係に鍵を借りるという形だと気まずく、事務が空いている時間しか利用できず利用しづらい |
| 学生など誰でも土足で過ごせる場所があるとよい                            |
| 卒業生や父親が子どもを連れてくることも考えられるため、女性に限定しないほうが利用しやすい環境になる |
| トイレに一箇所だけでもオムツ替え台や授乳・搾乳するために座れる椅子がある個室があれば十分      |
| 掃除がどのようにされているのか不安                                 |

### 4. 子育てと仕事の両立に関して不安なこと、困っていること

最後に、子育てと仕事の両立に関して、不安なことや困っていることについて、寄せられた意見を紹介したい。

まず、若手教員や大学院生の場合には、現在の子育てと仕事の両立についてというだけではなく、任期付きの不安や、それにとまなう将来の不安が多く寄せられた。

|  |
|--|
| <b>【任期付きであることによる子育てと仕事の両立に関する不安】</b>   |
| 妊娠した場合、産休などの休業期間に代替教員を雇用してもらえるのかどうか、どのような対応があるのか分からない                                |
| 任期付のため妊娠出産するとなると短期復帰か退職を選択しなければ迷惑になるのではないかと不安  |
| 任期付きで妊娠出産の可能性やその場合の対応などについて専任教員に相談することが自身の評価の低下につながるのではないかと不安                        |
| 任期付きでこそ業績を積み次の職を探す必要があるが、通常の勤務時間外の実験や出張、休日や夜に開催される研究会、学会大会や懇親会等への参加、宿泊を伴う調査に参加するのが困難 |
| 勤務時間外や休日でも子ども部屋や保育の利用が出来ると助かる  |
| 両立のために十分な時間がとれない（保育園への送迎時間、子どもの看病、子どもの病気の二次感染などにより）                                  |

また、上記の意見は、将来のことを考えて大学院への進学を断念する人々が潜在していることを示唆するものとなっている。特に女性の場合、研究職へ就くか子育てを含む家族形成をするかという、あってはならない二者択一を迫られているのが現状ではないだろうか。

## 第1部 アンケート結果

| <b>【研究職をつづける上でのジェンダーの壁】</b>  |
|--|
| 教員組織にもなるべくダイヴァーシティはほしいが、結婚子育て就職などを考慮して博士後期まで残り研究者を目指す院生を確保するのはむずかしいと感じる              |
| 教員になる女性を研究室で育てるのにかなりの困難（博士後期まで残らないため）とジェンダー差を感じる                                     |
| 大学院生の時に女性は男性の二倍もしくは三倍業績をつくらないと就職はできないと言われ、結婚も出産も就職のさまたげになると認識していた                    |
| 就職活動中「妊娠しない方がよい」、就職した後も「最低2年くらいは妊娠しない方がよい」と周囲からアドバイス（&指導）された                         |
| 子育てと仕事の両立が可能なのか不安だったため、少しづつ妊娠出産プランを先送りにしてしまったが、自分の意思で子育てをしなかったというよりは多くの壁に阻まれたとの実感が強い |

教職員の場合には、繁忙期に関する不安や、より「融通のきく」制度への転換を望む声が多数寄せられた。

| <b>【子育てと仕事の両立に関する教職員の意見】</b>   |
|--|
| 入試や卒業・入学等の繁忙期における仕事と子育ての両立や、仕事面と子育て面で緊急の重大案件が発生するタイミングが重なったときのことを考えると不安  |
| 普段から上司や同僚、家族や親戚と職場や家庭の状況を共有し良い関係を築いておくことが重要である   |
| 現在の育休制度はまとまった期間大学を「休まなければならない」、育休明けは「出てこないといけない」仕組みであり、白黒をはっきりつけようしているように見えるが「グレーを許す」期間があってもよいのではないか（たとえば、授業の開講・不開講を自由に決められるようにする、集中講義で置き換えるなど授業の組み方に柔軟性を持たせて、家からスカイプで授業やゼミなどを出来るようにするなど。また院生の指導は講義や会議と異なりある程度時間の融通が利くため完全に休まなくても継続できる。） |

## おわりに

今回のアンケート調査を通じて、男女協働推進の一環として子育て支援を進めていくための手がかりを多数得ることができた。そのなかには、現在ある子育て支援のサービスやシステムを周知という比較的取り組みやすいものから、より「融通のきく」職場へといった検討する時間が必要な取り組みまで、様々な提案もあった。このアンケート調査のまとめが、大阪大学及び人間科学部の男女協働推進の一助となれば幸いである。

2016年8月5日

## 子育て支援に関するアンケート調査ご協力のお願い

関係各位

(男性・子育て経験のない方も対象です)

人間科学研究科 男女協働推進ワーキンググループ

座長：木村 涼子

メンバー：三好恵真子、遠藤知子、知念渉、河森正人、前田美里

大阪大学では「大阪大学男女協働推進宣言」および「アクションプラン」を掲げ、今年4月から男女協働推進センターの設立とともにさらに本格的な男女協働に関する取り組みをすすめています。つきましては、人間科学研究科では男女協働推進ワーキンググループを立ち上げました。男女協働といえば、介護支援や女性比率向上、ハラスメント防止などさまざまな課題がありますが、今年度は子育て支援に焦点を当て、教職員や大学院学生のみなさまに現状の課題や要望を教えてくださいたく、アンケートへの回答をお願いする次第です。いただいた情報を検討し、今後の改善に極力いかしていきたいと考えております。

お伺いしたいことは、10の設問（問1から問10まで）になります。回答は基本的に匿名で結構です。いただいたご回答を調査目的以外に使用しないことはもちろんのこと、プライバシーの保護には最大限の配慮をいたします。ただ、アンケート後に、具体的な事例をくわしく教えていただきたく、ヒアリングもおこないたいと思っておりますので、子育て支援に関する調査にご協力いただける方は末尾にお名前と連絡先をご記入ください。こちらもちろんながら、プライバシーの保護には十分配慮をいたします。

お忙しい中恐縮ですが、ご回答の上、8月31日までに、教務係に手渡ししていただくか、庶務係の前に設置した専用メールボックスにお入れいただくか、もしくはメール(kimura@hus.osaka-u.ac.jp, aym.c.1985@hus.osaka-u.ac.jp)でお送りください。なお、メールの場合は、二つのメールアドレスを宛先に入れて、お送りください。



## 第1部 アンケート結果

- 1) 育児休暇を取得したことがある
- 2) 育児休暇を取得したことは一度もない

★「取得したことがある」に○をつけた方は、取得された回数、また取得しやすかったかなどその時の状況について教えてください。

回数：(      )回

取得した職場： 1) 阪大      2) 阪大以外      3) 阪大と阪大以外両方

取得時の状況（取得しやすかったかなど）

★一度でも育児休暇を取得しなかった経験がある方は、その理由について教えてください。

取得しなかった理由

問6 子育てと仕事の両立に関し、今後も含めて不安に思っていること、困っておられることがあれば教えてください。

問7 全学あるいは人科の子育て支援の取組の中で役立ったもの、役立ちそうなものとその理由について教えてください。

問8 人科独自の支援の一つである女性用休憩室を知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。



## 第3部 関連情報・サイト集

## 関連情報・サイト集

### 大阪大学が取り組む両立支援制度（産休・育休など）

---

|             |  |
|-------------|--|
| 次世代育成支援の手引き | 出産のための特別休暇、育児休業や経済的支援制度について、女性（妊産婦）教職員、男性教職員、男性・女性教職員ともに利用可能な制度が整理されています。<br><br>それぞれの制度のより詳しい情報については、リンクを通じて『次世代育成支援に関する手引き』をICHOよりダウンロードしてください。<br><br><a href="http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/guide/">http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/guide/</a> |
|-------------|--|

### 学生向けの情報

---

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 阪大での子育て学生ネットワークづくりのためのホームページ | 大阪大学の大学院生が立ち上げた、学生同士が研究と子育ての情報交換を行うウェブサイトです。<br><br><a href="https://ou-students-children.amebaownd.com">https://ou-students-children.amebaownd.com</a>   |
| 大阪大学大学院人間科学研究科・長期履修制度について    | 長期履修学生制度とは、学生が、職業を有している等の事情により標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。<br><br><a href="http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/applicants_for_graduate/long_term_course.html">http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/applicants_for_graduate/long_term_course.html</a> |

### 研究と子育ての両立支援

---

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 研究支援員制度                        | 出産・育児・介護で研究時間の確保が難しい研究者に対して、大学院修了者や学部卒業生・在学学生を「支援研究者」（特任研究員）や「研究補助員」（技術補佐員・事務補佐員）として雇用・配置し、研究を支援します。<br><br>詳細な内容については、男女協働推進センターホームページ「研究支援員制度」をご覧ください。<br><br><a href="http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/pregnancy/consistent/#a1">http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/pregnancy/consistent/#a1</a> |
| プラス One 短期教育研究支援制度             | 短期的・集中的に支援が必要となった場合の学生等のアルバイト雇用経費を援助します。<br><br>※研究支援員制度の利用期間中は適用不可。<br><br><a href="http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/pregnancy/consistent/#a2">http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/pregnancy/consistent/#a2</a>   |
| 文部科学省 研究と出産・子育て等のライフイベントとの両立支援 | 研究者の出産・子育て期間中の研究活動を支える取組への支援、出産・子育てから円滑に研究現場に復帰できるようにするための取組への支援、女子中高生の理系進路選択への支援などに関する情報が掲載されています。（男性研究者も対象としています。）<br><br><a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/lifeevent/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/lifeevent/index.htm</a>                                     |



### 学内の保育施設や設備

|              |   |
|--------------|---|
| 学内保育園        | 学内保育園(事業所内託児施設)として、吹田キャンパスにおいて『たけのご保育園』と『まきば保育園』を、豊中キャンパスにおいて『まちかね保育園』を運営しています。<br><a href="http://www.hoikuen.osaka-u.ac.jp/">http://www.hoikuen.osaka-u.ac.jp/</a>  |
| 一時預かり保育室     | 育児に携わる教職員・学生への両立支援として、保育園ではカバーできない時間帯(早朝・夜間、土日祝日等)の未就学児や小学生の緊急・一時的な預かり保育の場として、豊中・箕面キャンパス内に一時預かり保育室が整備されています。<br><a href="http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/facilities/nursery-room/">http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/facilities/nursery-room/</a> |
| 病児・病後保育室あおぞら | 病児・病後児保育室は、本学の教職員が病気の子供を家庭で保育することが困難な場合に、医学部附属病院小児科医師と連携し、看護師・保育士が常駐する環境において病児・病後児を保育することにより、子育てと就労の両立を支援するものです。<br><a href="http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/facilities/disease/">http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/facilities/disease/</a>       |
| 女性専用休憩室      | つわりなど体調が悪いときや、さく乳・授乳のために使用できる女性専用の休憩室を整備している部局があります(設備の内容などは部局により異なります)。所属部局の庶務担当係までお問い合わせください。   |
| 電動さく乳器のレンタル  | 男女協働推進センターでは、電動さく乳器のレンタルを行っています。レンタルに関する詳細については、男女協働推進センターホームページ「電動さく乳器レンタル」をご覧ください、IChOドキュメント管理に掲載の「さく乳器貸出申請書」をご提出ください。<br><a href="http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/pregnancy/birth/">http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/pregnancy/birth/</a>     |

### 学外のサイト

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 文部科学省 研究と出産・子育て等のライフイベントとの両立支援 | 研究者の出産・子育て期間中の研究活動を支える取組への支援、出産・子育てから円滑に研究現場に復帰できるようにするための取組への支援、女子中高生の理系進路選択への支援などに関する情報が掲載されています。(男性研究者も対象としています。)<br><a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/lifeevent/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/lifeevent/index.htm</a> |
| 内閣府男女共同参画局                     | 男女共同参画社会に向けた政府の方針・政策・法律などに関する情報が掲載されています。<br><a href="http://www.gender.go.jp/">http://www.gender.go.jp/</a>  |
| NWEC 国立女性教育会館                  | 男女共同参画社会の形成を目指した女性教育に関するナショナルセンターです。国内外の女性関連施設等と連携し、さまざまな事業や研修を実施したり、利用者に施設の提供をしています。<br><a href="https://www.nwec.jp/">https://www.nwec.jp/</a>  |

## あとがき

『男女協働推進ワーキンググループ報告書』が完成しましたのでお届けします。アンケートにお答えいただいたみなさま、そしてインタビューにお答えいただいたみなさまに感謝いたします。

本報告書には、学内や研究科内における男女協働推進についてのさまざまな情報や、ワーキンググループによるアンケート集計結果にくわえて、教員、事務職員、学生の方がたにたいするインタビューの結果が収録されています。ひとくちに男女協働推進といっても、そのとらえ方は置かれた立場によってちがいます。おなじ職種、職階であれば、職場での就労実態や家庭内での生活のパターンについて、ある程度推察することが可能ですが、それが異なるとなかなかイメージできないところがあります。また、今回は男女協働推進について、子育てという点にしぼって検討してきましたが、年代（ライフサイクルのなかのどこにあるか）によってとらえかたに温度差があります。おたがいを知るとい意味で、今回のインタビューはおおきな意味をもっているといえます。

そもそも男女協働推進には、性差をどうとらえるか、婚姻や家族（制度）それ自体をどうとらえるか、労働や賃金というものをどうとらえるかといった、本質的でおおいに議論すべきことがらがふくまれています。ここにも立場のちがいが反映します。政府のばあいは「男女共同参画」ということばを用いますが、これは、こうした立場のちがいを背景にしながら、国というおおきなレベルで合意（妥協）し、できあがったものです。われわれはその大状況をおおいに知るべきだろうと思います。他方、阪大のなかでは、「男女共同参画」や「男女協働推進」が混在しています。人科は「男女協働推進」を用いています。大切なことは、そのもとで、われわれがどのような合意をつくるかということです。本報告書の発行を機会に、男女協働にかんする人間科学研究科内での議論が活発になることを期待したいと思います。

大阪大学 人間科学研究科/人間科学部  
男女協働推進ワーキンググループ  
河森 正人

## 男女協働推進ワーキンググループ 2016 年度報告書

2017 年 6 月

発 行 : 大阪大学 人間科学研究科/人間科学部

男女協働推進ワーキンググループ

5 6 5 - 0 8 7 1 大阪府吹田市山田丘 1 - 2

[Web アドレス] <http://www.hus.osaka-u.ac.jp>

座長 木村 涼子

WGメンバー (以下アイウエオ順)

2016 年度 : 遠藤知子、河森正人、知念渉、前田美里、三好恵真子

2017 年度 : 遠藤知子、河森正人、富玲奈、三好恵真子、山口洋介